

(案)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
実施段階環境影響評価書案（全体計画・競技）について（意見）

第1 審議経過

本評価委員会では、令和元年10月4日に「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書案（全体計画・競技）」（以下「評価書案」という。）について意見聴取されて以降、審議を重ね、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

第2 審議結果

評価書案は、おおむね「東京2020オリンピック・パラリンピック環境アセスメント指針（実施段階環境アセスメント及びフォローアップ編）」に従って作成されたものであると認められる。

ただし、大会運営計画等の一部については未だ未成の部分があり、評価書案全体としても、必ずしも十分な予測・評価とは言い難い点がある。

については、環境影響評価書を作成するに当たっては、次に指摘する事項について留意し、その記載内容を充実させるとともに一層理解しやすいものとなるよう努めるべきである。

1 総括的事項

(1) 評価書案全体として、大会運営計画及び施設計画（解体工事等）が未だ詳細が不明な部分が多い段階で予測・評価が実施されているが、環境影響評価書の作成に当たっては、可能な限り、最新の計画内容を反映させること。

(2) 大会に向けてテストイベントを活用した検証を行うとしていることから、その検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。

(3) 各競技については、気象条件等を十分に考慮して、組織委員会との協議の上、国際競技団体（IF）の責任において、実施すること。

2 項目別事項

(1) 主要環境（大気等、水質等）】

(大気等)

① 本事業は、近年にない大規模なイベントであり、大会の開催に伴い、多くの関係車両の走行が予定される。また、競技施設等の周辺には、多くの住宅、教育施設、福祉施設、医療機関等の環境上配慮すべき施設が存在している。このことから、2019年夏の試行（輸送テスト）を踏まえたミティゲーションを充実させるとともに、関係車両の走行に当たっては周辺地域への環境負荷の一層の低減に努めること。<全体計画>

〔生活環境（騒音・振動）と共通〕

- ② 大気等の予測においては、開催に当たっての東京都等の取組や活動状況を参考として、開催中の大気等の状況を類推する方法としているが、フォローアップでは、一般環境大気測定局などの測定値を用いて、大会の開催による大気等の変化の程度を定量的に示すこと。＜全体計画＞
- ③ 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については、2018年度の測定結果が公表されていることから、最新のデータに更新すること。＜全体計画・競技＞
- ④ 競技者は競技中に激しい呼吸をするなど、一般市民と異なる身体的状況にあることから、それらを考慮した予測・評価を行うこと。＜競技＞
- ⑤ 大会における取組を実践的に準備するためテストイベントを活用した実地検証を行うとしていることから、検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。＜競技＞
〔生活環境（騒音・振動）と共通〕

（水質等）

- ① テストイベントを活用した検証を行うとしていることから、検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。＜競技＞
〔生態系（生物・生態系）と共通〕
- ② トライアスロン・水泳（マラソンスイミング）については、ワーキンググループを設置し、お台場海浜公園の水質安定化に向けた取組を進めることにより、アスリートへの影響を極力低減するとしていることから、検討結果や具体的な対策を明らかにすること。＜競技＞

（2）【生態系（生物・生態系、緑）】

（生物・生態系、緑 共通）

- ① 現況調査結果の緑の状況についてみどり率等を用いて説明しているが、直近で最新データが公開されていることから、掲載されているデータを更新し、他の緑に関するデータも同様に最新のデータを用いること。＜全体計画＞
- ② 会場整備により確保される緑化面積の予定が個別には記載されているが、会場整備全体で保全・創出される緑地の総量等が不明であることから、東京ベイゾーン及びヘリテッジゾーンの緑のネットワークなどのトータルのシステムを示すなどして、会場整備に伴う緑化が緑の全体像にどのように貢献しているかを明らかにすること。＜全体計画＞

（生物・生態系）

- ① 類似大会の実施状況を示すことにより問題はなかったとしているが、大規模な国際大会における危険生物による事故事例の有無等を確認し、記載すること。＜競技＞
- ② テストイベントを活用して実地検証を行うとしていることから、検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。＜競技＞

〔主要環境（水質等）と共通〕

(3) 【生活環境（騒音・振動）】

(騒音・振動)

① 本事業は、近年にない大規模なイベントであり、大会の開催に伴い、多くの関係車両の走行が予定される。また、競技施設等の周辺には、多くの住宅、教育施設、福祉施設、医療機関等の環境上配慮すべき施設が存在している。このことから、2019年夏の試行（輸送テスト）を踏まえたミティゲーションを充実させるとともに、関係車両の走行に当たっては周辺地域への環境負荷の一層の低減に努めること。〈全体計画〉

[主要環境（大気等）と共通]

② 大会開催中には多くの大会関係車両が走行し、周辺地域沿道に騒音等の影響を与えるおそれがあることから、関係車両の稼働台数を明らかにした上で、フォローアップにおいて稼働状況を報告すること。〈全体計画〉

③ 会場周辺及びラストマイルにおいては、競技の実施に伴う様々な音が発生し周辺住民の生活環境に影響を及ぼすおそれがある。ここでは、テストイベントを活用した実地検証を行い円滑な大会運営のための取組を推進することとしていることから、その検証結果を記載すること。また、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。〈全体計画〉

④ 大会における取組を実践的に準備するためテストイベントを活用した実地検証を行うとしていることから、検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。〈競技〉

[主要環境（大気等）と共通]

(4) 【アメニティ・文化（歩行者空間の快適性）】

(歩行者空間の快適性)

大会中の暑さ対策は東京都と組織委員会が連携して実施し、さらにテストイベントにおける検証結果を踏まえてより効果的な対策を取りまとめることとしていることから、その検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。〈全体計画、競技〉

(5) 【資源・廃棄物（水利用、廃棄物、エコマテリアル）】

(水利用)

① 大会開催中に恒久施設の節水機器等を確実に稼働させるなど、開催都市の上水利用の負担軽減を図ること。

② 水利用の予測では、恒久施設の取組や運営計画等から推定する方法としているが、フォローアップでは、可能な限り水の効率的利用への取組・貢献等を定量的に示すこと。

(廃棄物)

① 大会開催中は、多くの運営時廃棄物の発生が想定される。そのため、各施設の特徴を踏まえ廃棄物の分別、保管、収集運搬、処理・処分方法を明らかにすること。

- ② これまでの図書では、仮施設整備に伴う建設廃棄物等については全体計画で評価するとしてきたことから、フォローアップで、仮施設の廃棄物の発生量を明らかにすること。
- ③ 大会開催中に、「競技会場内での容器包装やレジ袋等の廃プラスチックの削減に向けた取組を行うとともに、観客への働きかけを行う。」としていることから、具体的な取組内容を明らかにすること。

(エコマテリアル)

- ① これまでの図書では、仮施設整備に当たって使用するエコマテリアルについては全体計画で評価するとしてきたことから、仮施設整備における環境物品の使用状況を明らかにすること。
- ② 選手村のビレッジプラザで使用した木材は、大会後各自治体の公共施設等でレガシーとして活用するとしていることから、フォローアップ等で、その活用状況を明らかにすること。

(6)【温室効果ガス（温室効果ガス、エネルギー）】

(温室効果ガス、エネルギー 共通)

- ① 新規恒久施設では東京都建築物環境計画書制度における段階3（最高評価）を目指すとしていることから、具体的な削減率（E R R）等を一覧で示すこと。
- ② 仮施設も含め各施設のエネルギー使用量をフォローアップで報告すること。

(7)【社会活動（スポーツ活動、文化活動）】

(スポーツ活動)

- ① スポーツ活動については、大会を契機に多くの取組が行われることから、フォローアップ等では、大会の実施により増減と思われるスポーツ活動の状況を適切に把握すること。
- ② 都内の幼稚園児から高校生を対象に大会の観戦機会が得られるよう学校連携観戦プログラムを進めるとしていることから、フォローアップでは、学校数など具体的な内容を明らかにすること。

(文化活動)

- ① 複数の主体による文化プログラムが示されていることから、フォローアップ等で、それらの実施状況を明らかにすること。
- ② 大会では、コミュニティライブサイト会場での文化イベントの開催等により、東京都の文化を広く発信するとしていることから、具体的な発信の内容とその方法を明らかにすること。
- ③ 「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を策定し、情報提供のバリアフリー化の進展に向けて、適用対象施設の所有者・管理者等に対し、ガイドラインに則した環境整備を働きかけるとしていることから、フォローアップ等で、具体的な環境整備状況を明らかにすること。

- ④ 文化活動の冒頭部分では、大会はスポーツだけではなく文化の祭典であることが記載されているが、オリピズムはスポーツ・文化、また近年では環境を柱としていることから、項目全般にわたる形でこの旨を記載すること。

(8)【参加・協働（ボランティア、コミュニティ、環境への意識）】

(ボランティア)

- ① テストイベントにおけるボランティア活動（シティキャスト）の検証結果を明らかにするとともに、ボランティアの健康・安全対策など新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。
- ② 現況調査において東京都内及び東京都外の一部の自治体によるボランティアの募集内容を取りまとめているが、これらの自治体以外でもボランティアの募集を行っている場合はその内容を記載すること。
- ③ 大会で多くのボランティアが活動を行うことも踏まえ、フォローアップ等で、大会時のボランティアの活動状況と共に、大会の実施により増減すると思われるボランティア活動の状況を適切に把握すること。

(コミュニティ)

- ① 現況調査において、自治会・町会等の状況で地縁団体数を挙げていることから、自治会・町会等の活動状況についても明らかにすること。
- ② 現況調査において、公民館や学校などの公共施設の設置数を挙げていることから、これらの施設において行われているコミュニティ活動の状況についても明らかにすること。
- ③ 新たな地域コミュニティの状況として SNS 等を挙げていることから、地域における SNS 等を用いたコミュニティ活動の状況についても明らかにすること。

(環境への意識)

- ① 「東京 2020 大会では、使い捨て型ライフスタイルの見直しへの転換を図るため、使い捨て型製品の使用の抑制、レジ袋の削減を図るとともに、観客等への啓発を行う。」としていることから、具体的な啓発の内容及び方法を明らかにすること。
- ② 選手村地区においては、環境負荷の小さい燃料電池バスの運行を行うとしているが、フォローアップでは、選手村の燃料電池バスをはじめとした、大会全体の燃料電池自動車・バスの稼働台数を明らかにすること。
- ③ 大会時において選手村の水素関連施設の一部を先行して稼働させ、世界に取組を発信していく予定としていることから、ミティゲーションでその発信方法を明らかにすること。
- ④ オリンピック精神の第三の柱である環境については、大会を契機に様々な取組が行われることから、フォローアップでは、それらの実施により増減すると思われる都民等の環境への意識に対する変化について、実際の行動を多方面から捉えて報告すること。

(9)【安全・衛生・安心（安全、衛生、消防・防災）】

（安全）

- ① ラストマイルにおけるアクセシビリティについて、テストイベント等における検証結果を記載するとともに新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。
- ② 観客の輸送ルートにおいて、アクセシブルルートが検討中の会場もあることから、全会場のアクセシブルルートを早期に明らかにすること。
- ③ アクセシブルルートの周知については、ホームページや広報誌等、様々な媒体を活用して情報提供をすることとしていることから、観客の多様性にも配慮し、周知方法を更に具体的に記載するとともに周知徹底に努めること。
- ④ 安定したエネルギー供給を実施するため、ロンドン大会と同様に仮設電源システムを導入する計画としているが、一時停電に対する対応についても記載すること。

（衛生）

- ① 東京の安全で高品質な水道水を実感してもらうために、全国初となる屋外型のボトルディスペンサー式水飲栓を東京国際フォーラムに設置しているが、大会中にこの様な東京の水道水の安全性をどのように発信していくのか、取組内容を明らかにすること。
- ② 大会で食品安全確保の手法として用いるHACCPについては、昨年の食品衛生法の改正により法定化されていることから、法令等に係る現況調査において、その概要等を記載すること。
- ③ 大会開催中の飲食物の提供業務を受託する事業者は、「東京 2020 大会において提供される飲食物の安全確保のためのガイドライン」に基づく事項を遵守するとあることから、食品衛生責任者の設置状況等、ガイドラインの詳細及びその取組状況を明らかにすること。
- ④ 日本では夏場は高温多湿の時期に当たり、飲食物に起因する食中毒のリスクが高い。また、大会中は多数の外国人が訪れることから、多言語による注意喚起など、大会における食品衛生に関するよりきめ細かな情報提供を行うこと。

（消防・防災）

- ① 大会開催に向けて実地訓練などを通じた検証、改善を進めるとしていることから、検証結果や改善の取組を明らかにすること。特に、夏の停電は、空調やトイレなど、選手・観客の命にも関わる問題につながることから、施設全般において、非常電源の確保をはじめ、徹底した停電対策を行うこと。
- ② 直近では自然災害が頻発しており、災害発生時には、施設周辺の避難誘導だけでなく公共交通・施設へのアクセス路など、あらゆる面での安全対策が必要となる。こうした点を踏まえ、新たな対策を取りまとめた場合は、その内容を記載すること。

(10)【交通（交通渋滞、公共交通へのアクセシビリティ、交通安全）】

(交通渋滞)

- ① 夏の試行期間(2019年)の検証結果を明らかにするとともに、トラフィックペリメーター周辺と輸送ルートの渋滞を回避するため、多様な手段を用いて十分に周知を行うこと。
- ② 観客及び会場スタッフの移動は公共交通機関を最大限利用するとしているが、都外には公共交通機関のみでは十分な対応ができない会場もあることから、観客等の移動に支障がないよう対応を検討し明らかにすること。

(公共交通へのアクセシビリティ)

- ① セキュリティペリメーターの設置範囲及び設置期間については、関係機関と連携しながら検討することとしていることから、できるだけ早期にこれらの決定を行うこと。
- ② 競技会場周辺においては、セキュリティペリメーターが設置されることにより一般利用者のアクセシビリティが低下するため、設置に伴う影響や対策に関する事前周知を多様な手段を用いて十分に行うこと。
- ③ 大会開催中の列車の混雑に対する一般利用者のアクセシビリティ向上に向けた対策を検討し、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。

(交通安全)

- ① 一般道路の輸送ルートについては、4車線以上の高規格道路や歩車分離されている道路を原則選定しているが、輸送ルートとラストマイルが交差する箇所に信号機が設置されていない会場や歩道の狭い会場もある。また、大会にはアクセシビリティに配慮が必要な観客も多く訪れる。こうした地理的状況や観客の多様性にも配慮し、事前周知を十分に行うなど、交通安全に向けた取組を徹底すること。
- ② オリンピック競技期間中においても競技会場周辺では教育施設や保育園の児童の通行が想定されることから、大会関係車両の一時停止等の安全確認を徹底すること。

(11)【経済（経済波及、雇用、事業採算性）】

(経済波及、雇用 共通)

- ① 予測結果では、直接的効果及びレガシー効果に分けて需要増加額が示されていることから、ミティゲーションについても直接的効果に係る取組に加え、レガシー効果に係る取組についても記載すること。
- ② 予測結果の雇用誘発数について、産業別の数値も記載すること。

(事業採算性)

- ① 調査結果について、今後公表される予定の「組織委員会予算V4」を踏まえた記述を追記すること。
- ② 最終的な収支について、フォローアップ等で適切に報告すること。

【審議経過】

年 月 日	審 議 事 項
令和元年10月4日	○評価書案について意見聴取、評価書案内容説明
令和元年11月12日	○項目別審議 <ul style="list-style-type: none"> ・参加・協働（ボランティア、コミュニティ、環境への意識） ・安全・衛生・安心（安全） ・交通（交通渋滞、公共交通へのアクセシビリティ、交通安全）
令和元年11月22日	○項目別審議 <ul style="list-style-type: none"> ・主要環境（大気等） ・生活環境（騒音・振動） ・安全・衛生・安心（衛生）
令和元年12月6日	○項目別審議 <ul style="list-style-type: none"> ・資源・廃棄物（水利用、廃棄物、エコマテリアル） ・温室効果ガス（温室効果ガス、エネルギー） ・社会活動（スポーツ活動、文化活動） ・経済（経済波及、雇用、事業採算性）
令和元年12月11日	○項目別審議 <ul style="list-style-type: none"> ・主要環境（水質等） ・生態系（生物・生態系、緑） ・アメニティ・文化（歩行者空間の快適性） ・安全・衛生・安心（消防・防災） ○総括審議 ○意見(予定)